



# ろくべん館だより

こんにちは。ろくべん館管理人の森上です。朝夕の気温が一気に下がり、いよいよ冬の到来を感じさせる今日この頃となりました。村民の皆さんも体調管理に十分ご留意ください。



赤石岳と小渋川

さて、ろくべん館は現在大規模な改修を行っておりますが、新たに展示を計画しているものがあります。新たな展示についてはいくつか計画されておりますが、今回は柳下 修さん（作者名 柳土情）の切り絵についてお話しします。

皆さんもご存知かと思いますが、柳下さんはご夫婦で30数年前に大鹿村に移住され昨年まで釜沢集落にお住まいでした。柳下さんは、大鹿村に住まわれてからしばらくはご夫婦で観光案内所「ビガーハウス」の管理人をされて、そこで切り絵を製作されておりました。一つ一つの切り絵の製作は非常に細かな作業が必要で根気のいる仕事であったことと思います。私も当時公民館の主事をしておりましたので何度となくビガーハウスを訪ねて柳下さんの作業を目にすることがありましたが、いつも黙々と作業をされて

いて手や目など体全体が疲れるお仕事ではなかったかと感じています。

年を経るごとに新聞や雑誌などで取り上げられて、カレンダーや絵葉書の原稿になったものも数多くあります。各地で切り絵展も毎年開催されています。また、各種の賞も受賞され、令和元年には県知事表彰も受けられました。



大鹿歌舞伎 絵本太功記十段目

数年前に柳下さんから大鹿村に作品の寄贈が行われました。多くはろくべん館と交流センターで保管しておりますが、数えてみますと百数十枚の原画が残されています。薄い柿渋色の紙に彫られていますので非常に破損しやすく取扱には気をつけて保管しています。

この度ろくべん館の改修を機に柳下さんの切り絵を村内外の多くの皆さんにご紹介したいと展示スペースを設けることとしました。四季折々の風景、伝統行事、日常生活、イベントなど様々なテーマの切り絵が製作され残されています。

来年の改修後のろくべん館でぜひこの切り絵をご覧になってください。